

守山企業景況調査報告書

(第4回)

平成22年7月～平成22年9月期 実績

平成22年10月～平成22年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 22 年 7 月～平成 22 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	18	90%
製造業	13	13	100%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	19	95.0%
卸売業	6	6	100%
合計	71	67	94.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 22 年 7 月～平成 22 年 9 月、見通しを平成 22 年 10 月～平成 22 年 12 月とし、調査時点は平成 22 年 9 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 22 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

前年同期と比べた 7～9 月期の DI は、業況、売上高、採算、資金繰りの 4 指数とも改善している。特に売上高は、▲1.5 となり、ほぼプラスマイナス 0 の水準まで回復している。他の指数は、業況の▲13.6、資金繰りの▲11.7 と 3 四半期前との比較をすると相当の回復を見せている。一方で採算（経常利益）は▲46.3 と 3 四半期前の水準と変わらず、マイナス 40 ポイント台に低迷している。

しかし、10～12 月期見通しでは売上高と資金繰りの指数が下降しており完全な回復基調という見方はし難いと言える。

<業況>

調査企業全体の 7～9 月期の前年同期との比較 DI は▲13.6 となっており、4 回連続の改善となっている。改善の幅は鈍化しているものの、平成 21 年 10～12 月期以来着実に回復しているものと考えられる。

平成 22 年 10～12 月期の業況見通しは▲14.5 とわずかに 7～9 月期を下回る結果となった。

<売上高>

調査企業全体の 7～9 月期の前年同期との比較 DI は▲1.5 とほぼプラスマイナス 0 のところまで回復した。4～6 月期に踊り場的な動きを見せた売上高の DI であるが、今回調査では一気に 20 ポイント以上の改善が見られる。

しかし、10～12 月期見込みの DI が▲26.9 と逆に大きく落ち込んでおり、予断を許さない状況にあると言える。

<採算（経常利益）>

調査企業全体の 7～9 月期の前年同期との比較 DI は▲46.3 となった。4～6 月期に比べると約 13 ポイントの改善であるが、依然マイナス 40 を下回る水準である。他の指数と比較すると採算（経常利益）の DI がかなり後れを取っている形となっており、利益確保の難しさを表していると言える。

しかし、10～12 月期見通しでは▲15.2 と大幅に改善しており採算面での回復が期待される場所である。

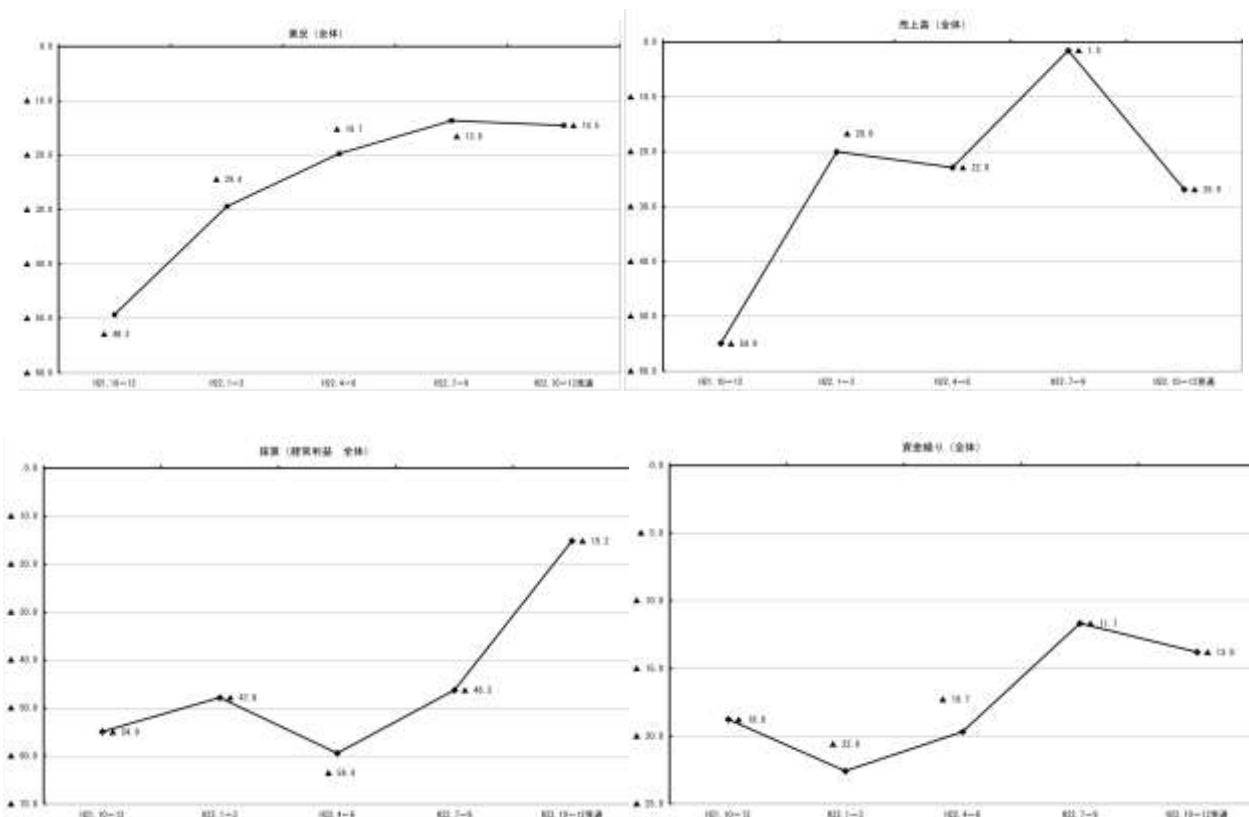
<資金繰り>

調査企業全体の 7～9 月期の前年同期との比較 DI は、▲11.7 となった。資金繰りは平成 22 年 1～3 月期の▲22.6 を底に徐々に回復している。

10～12月期の見通しが▲13.8とわずかな落ち込みを見せているので、今後の資金繰りの動きは売上高と同様に注視していく必要があると言える。

<その他の意見>

- ・エコポイントバブルで売り上げが好調であった分、今後の需要の落ち込みが考えられるので、その対策が必要である。
- ・今年後半について、円高等の経済要素がじわりじわりと効いてきています。
- ・政治が不安定なので国民が安心して暮すことができない。だから、消費にお金に向うわけがない。
- ・消費の低迷と政治の先行き不安により十分な雇用が確保できず、お客様の購買意欲の低迷を上昇させるためには自社として何ができるのか日々思案しています。
- ・景気の回復をのぞむ
- ・現在のゼロ金利政策を継続しても景気が良くなるどころかデフレスパイラルに落ち込み不景気であるので、逆転の発想で金利を上げてはどうか。
- ・円高や輸出企業にとっては少しダメージがあると思うが、預貯金を多く持っている高齢者にもっと余裕を持ってもらい消費を促し、この状況を打開するののも一つの手段かもしれない。
- ・世界的にも日本的にも地域的にも、地方商店街の将来は暗い。1つのパイをアウトレット、インターネット、大型店、同業者（異業種）が奪い合っている現状では夢がない。消費者の心理が上向かないと良いもの（本物）は売れないと思う。時間がかかるので、そこまで持ちこたえられるかの体力勝負と思う。



小売業

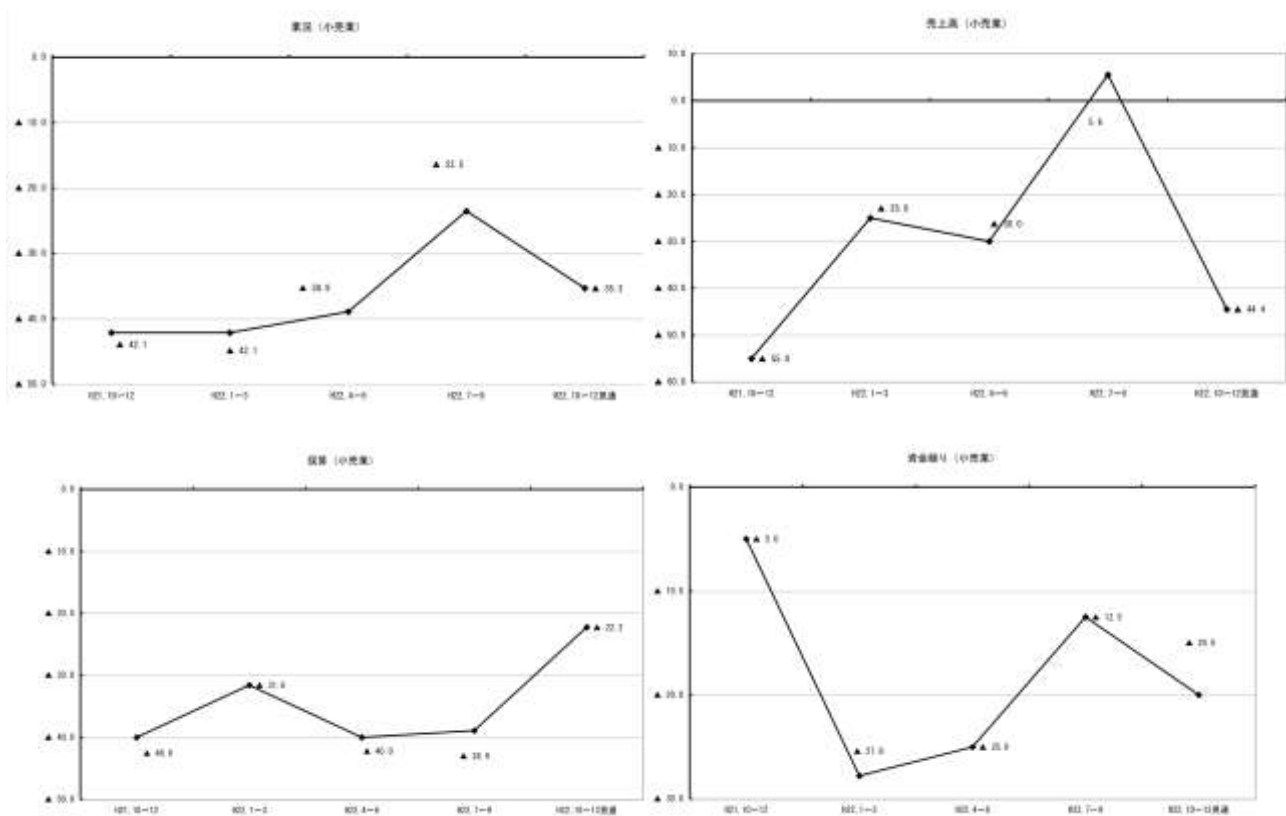
小売業の売上高の昨年同期との比較 DI は 5.6 とプラスになった。4～6 月期との比較 DI でも 5.6 とプラスになっており、7～9 月期の売り上げは増加していたことが見て取れる。しかし、客単価は前年同期との比較で▲16.7、4～6 月期との比較で▲11.1 とマイナスになっている。10～12 月期の売上高見通し DI は前年同期に比べて▲44.4 と大幅な落ち込みの観測になっており、回復したとは到底言える状況ではない。

7～9 月期の単独での業況は▲29.4 であり、前年同期比較では▲23.5、4～6 月期比較では▲15.4 と業況判断は売上高とは違いかなり厳しい結果となった。

採算は、7～9 月期単独で 0.0、前年同期との比較で▲38.9 となっている。10～12 月期の見込みは 0.0 であり、採算面でも苦しい結果であると言える。

10～12 月期の見通しについては、前年同期との比較 DI が売上高▲44.4、客単価▲33.3、客数▲22.2、採算▲22.2、業況▲35.3 といずれもかなり厳しい結果になっている。このことを裏付けるように、7～9 月期の引合い DI も▲35.7 と低調である。

これらのことは、資金繰りにも影響があり、7～9 月期の資金繰りは前年同期との比較で▲6.3、4～6 月期との比較でも▲12.5 であり、10～12 月期見通しでも前年同期に比べて▲25.0 と悪化傾向が見られる。

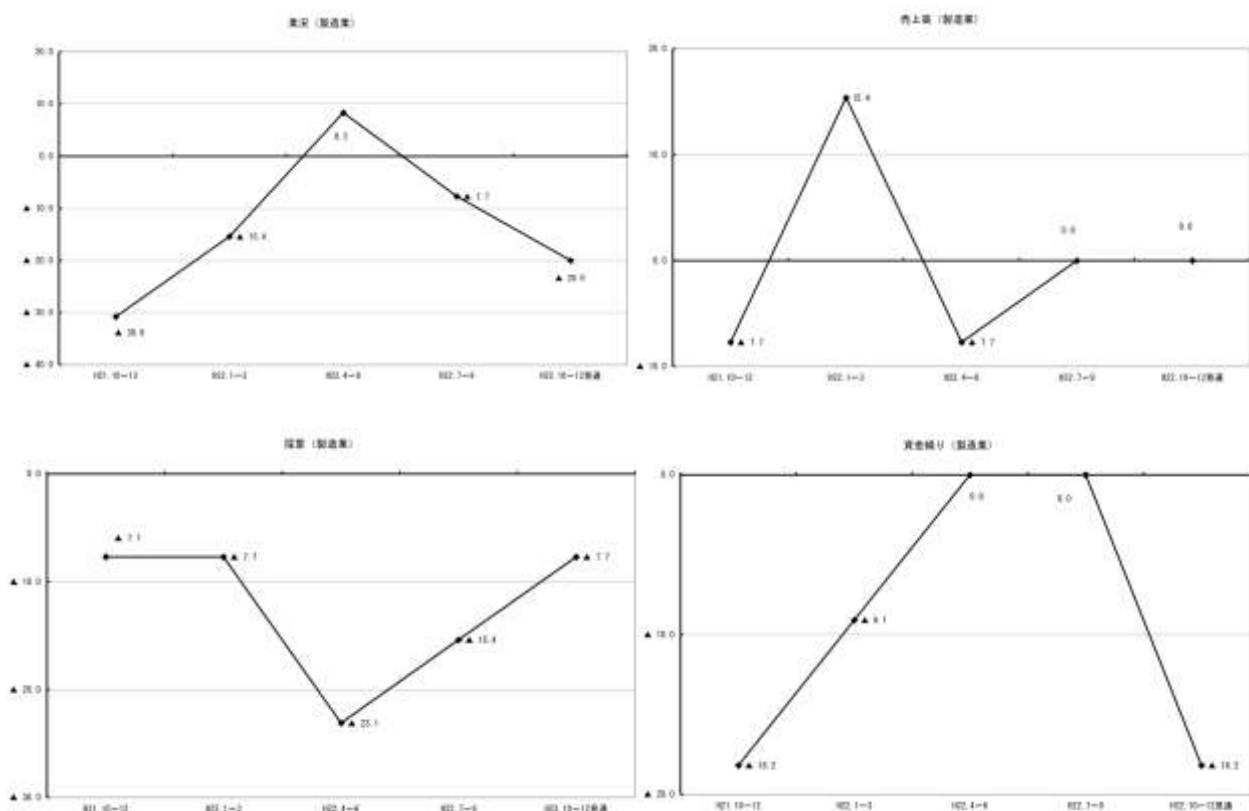


製造業

業況のDIは前年同期との比較で▲7.7と前回調査までの回復基調から一転してマイナスになった。4～6月期との比較で▲25.0、7～9月期単独での業況DIも▲23.1となっており、業況がこの7～9月期には悪化したことが伺える。

このことを裏付けるように、売上高のDIは4～6月期に比較して▲46.2と大きくマイナス側に傾いている。また、売上単価も▲38.5、売上数量▲38.5と4～6月期に比べてかなりの悪化を示す結果が出た。

10～12月期の見込みでは前年同期との比較で売上高が0.0、売上単価▲23.1、売上数量7.7となっており、単価が下るものの数量は増加するという見通しになった。しかし、将来の売上につながる引合いは7～9月期単独で▲23.1、10～12月期単独見通しで▲38.5となっており、引合いのDI指数がマイナスであることがこの先の業況や採算等に与える影響が懸念される場所である。これらの影響からか、採算の見通しは前年同期との比較で▲7.7となっている。ただし、10～12月期単独での採算見通しは7.7とプラスになっており、前年同期に比べると採算性が悪化するものの黒字を見込むことができるという結果になった。

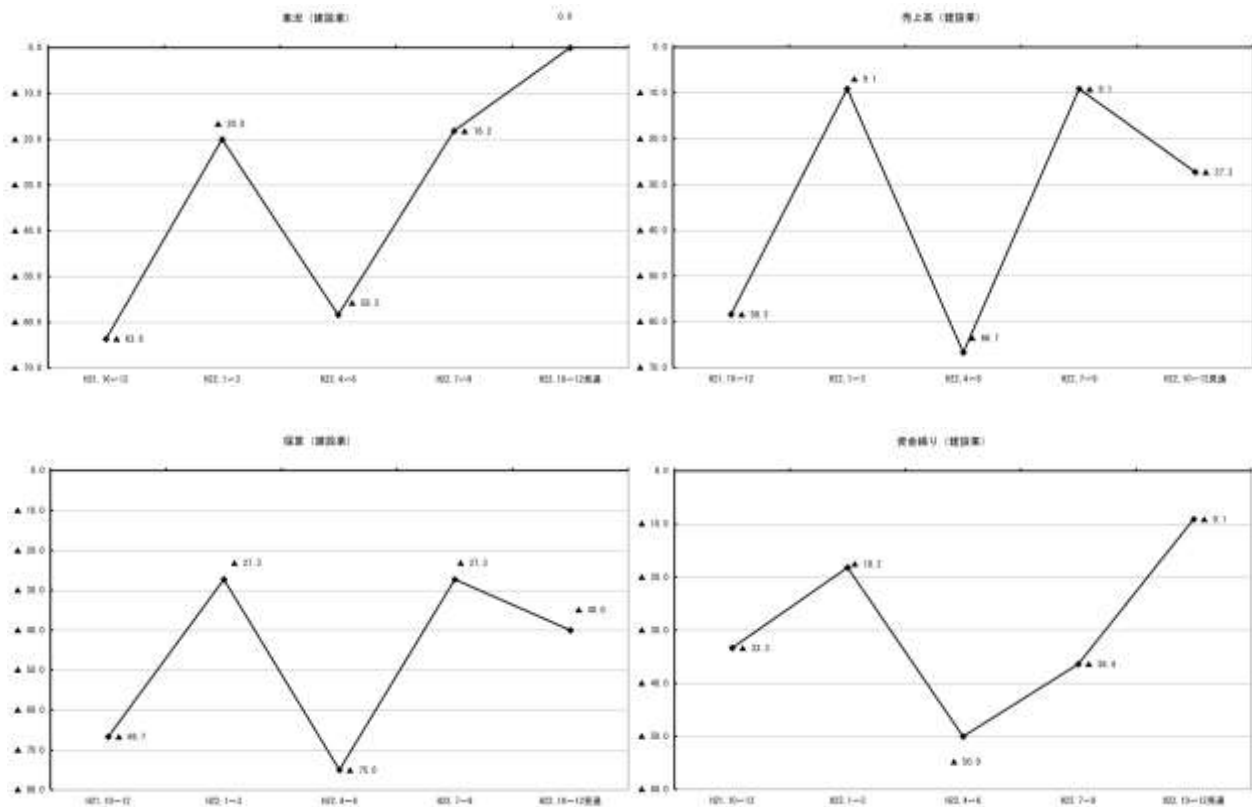


建設業

前年同期との比較の業況DIは▲18.2と前回調査に比べて40ポイントの改善を見せている。売上高でも前年同期との比較では▲9.1、採算は▲27.3、資金繰りが▲36.4と4つの指標とも改善されているのが7～9月期の建設業の特徴であると言える。受注に関して前年同期との比較で9.1とプラスになっていることから、7～9月期は前年同期との比較では明るい兆しがあったと考えられる。一方で、前年同期と比較すると資金繰りが▲45.5とマイナス幅の大きい結果を出しており、資金繰りは前年同期に比べて厳しいものであったようだ。また、契約残も前年同期との比較で▲45.5と言う結果が出ており、7～9月期は4～6月期に比べて多少明るい兆しがあったものの依然として全体に厳しい状況であることに変わりはない。

10～12月期の見込みでは、前年同期との比較で売上高が▲27.3、受注が▲10.0となっており、前年同期に比べると規模が小さくなると見込まれており、採算においても前年同期との比較で▲40.0と悪化見込みになっている。

しかしながら、業況においては10～12月期見通しを前年同期との比較で0.0、7～9月期との比較でも0.0、10～12月期単独の見通しでもとなっており、これ以上の悪化は見通されていない。

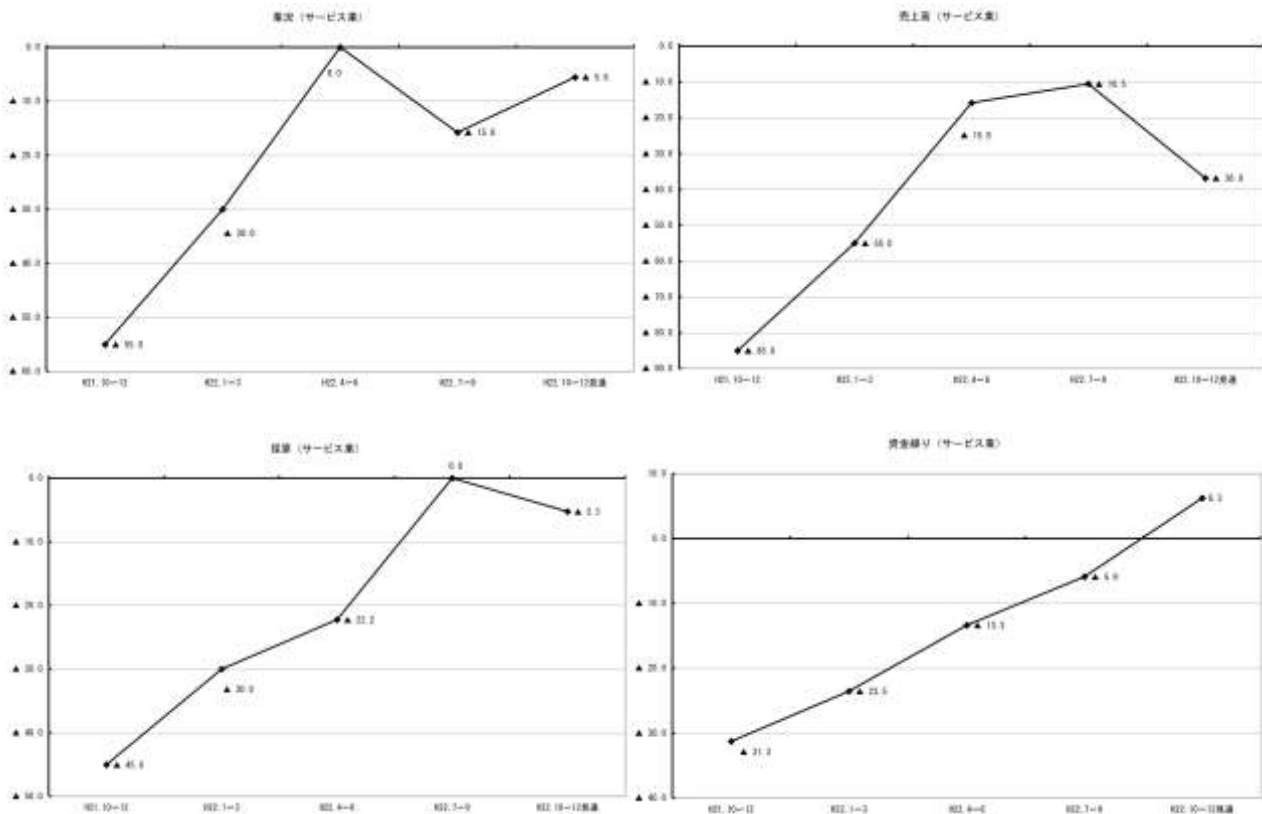


サービス業

前年同期との比較DIで業況が▲15.8となった。過去3四半期は順調に回復してきた業況DIであったが、7～9月期はマイナスに転じている。サービス業は、業況以外の売上高が▲10.5と約5ポイント回復、採算が0.0と約20ポイント回復、資金繰りが▲5.9と約4ポイント回復というように業況以外では前年同期DIが回復傾向になるのが特徴であり、この特徴は業況を除いた3指標で4四半期連続のことである。とは言うものの、客単価は前年同期との比較で▲57.9、4～6月期比較で▲22.2であり、利用客数も前年同期比較▲27.8、4～6月期比較で▲22.2という結果がでており、業況や売上高指標と個別の内容に食違いを見せていることも見逃せない事実である。

10～12月期の見通しでは前年同期との比較で売上高が▲36.8、客単価が▲52.6、利用客数が▲36.8となっているものの、業況では▲5.6にとどまっている。また、採算の見通しについても前年同期比較で▲5.3となっており、DIとしてはプラスに近付いてきている。

7～9月期の単独の採算DIが21.1と黒字事業所が多かったことも大きな特徴であり、10～12月期単独の見通しでも11.1と黒字事業所が赤字事業所を上回っている。

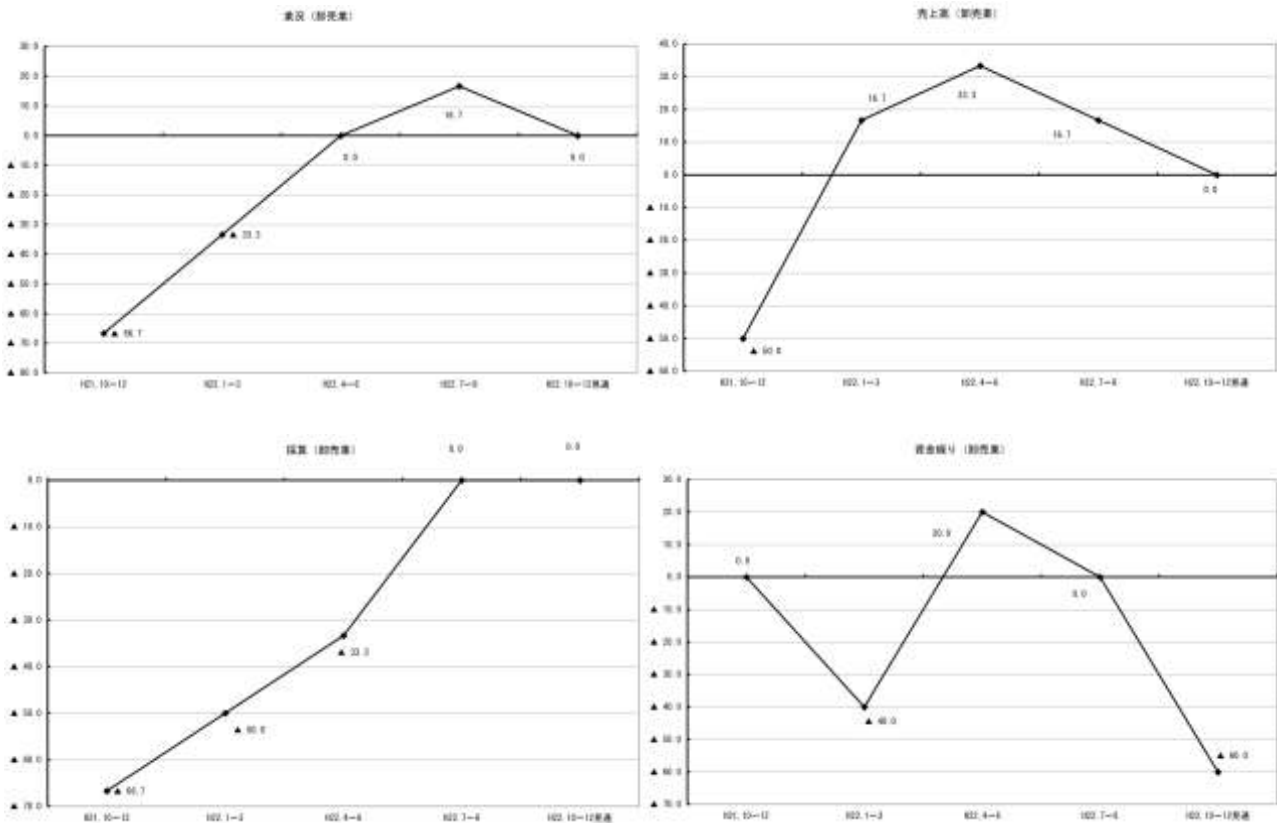


卸売業

前年同期との比較の業況DIは16.7と好転事業所が悪化事業所を上回った。売上高も前年同期との比較で16.7であり、採算は0.0、資金繰りが0.0と4指標全てで0以上のDIとなった。特に業況と採算は4四半期連続の回復である。4～6月期との比較DIでも売上高は16.7、業況16.7となっており、好転の状態が見て取れる。懸念材料は売上単価が前年同期との比較で▲16.7、4～6月期との比較で▲33.3と売上単価は低下傾向が見られることである。

10～12月期の見通しについては、前年同期との比較で売上高が0.0、懸念される売上単価が16.7となっており、引き続き状態は悪くないとの見通しになった。しかし、資金繰りについて、4～6月期に比べて資金繰りが悪化すると見通す事業所が多く、DIでは▲60と大幅にマイナスの結果が出ている。また、10～12月期の業況は7～9月期に比べて悪化すると見通す事業所もあり▲20となっている。

7～9月期単独での採算は16.7と黒字事業所が赤字事業所よりも多く、引合いも16.7と活発な引合いのある事業所が低調な事業所より多かった。10～12月期についても、単独では採算が16.7、引合いが16.7と見通しは全体として明るいものになっている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し
全 体	▲ 13.6	▲ 14.5	▲ 1.5	▲ 26.9	▲ 46.3	▲ 15.2
小売業	▲ 23.5	▲ 35.3	5.6	▲ 44.4	▲ 38.9	▲ 22.2
製造業	▲ 7.7	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 7.7
建設業	▲ 18.2	0.0	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 40.0
サービス業	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 10.5	▲ 36.8	0.0	▲ 5.3
卸売業	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し
全 体	9.1	6.2	▲ 19.0	▲ 33.9	▲ 3.2	1.6
小売業	0.0	0.0	▲ 26.7	▲ 35.7	0.0	13.3
製造業	15.4	7.7	▲ 23.1	▲ 38.5	▲ 15.4	▲ 15.4
建設業	▲ 9.1	0.0	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 20.0	0.0
サービス業	21.1	11.1	▲ 22.2	▲ 33.3	5.3	5.3
卸売業	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し	7月～9月 期動向	10～12月 期見通し
全 体	▲ 11.7	▲ 13.8	9.3	2.0	19.6	12.0
小売業	▲ 12.5	▲ 20.0	7.7	▲ 8.3	18.2	9.1
製造業	0.0	▲ 18.2	18.2	18.2	18.2	18.2
建設業	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0	20.0
サービス業	▲ 5.9	6.3	18.8	14.3	20.0	7.1
卸売業	0.0	▲ 60.0	25.0	0.0	25.0	▲ 20.0